

反省

①→寄り付き付近のスクャは、固いところをエントリー反発後欲張らず利確OK

途中のチャンス箇所が機能しないのならば、寄り付近で底となる位置を探してエントリーして、安値から高値まで握るという風にすればよいのではと考えるがそれは至難の業。自分は少しの含み損も許容できないから、（どこまでも含み損を伸ばしてしまい、下落の日だったら安値をどんどん切り下げていく可能性がある）そういうやり方は出来ない。底で損切して終了だと思う。底から上昇していく初動は、戻り売りの絶好のエントリーポイントだと思っているから、ロングではエントリーしないよって、底付近で拾って多少の含み損を許容し上まで握り続けるのは自分のスタイル上不可能。

②→チャンス箇所でエントリーしていると思っていたが、実際は強いトレンドの中で現れて初めて機能するエントリーであって、今日のエントリーポイントはその限りではなかった。要するにただ似たようなローソクの形がでたからチャンスと認定し、各諸条件が網羅されていない箇所でもエントリーをし続けていた。

ショート例：下落トレンドを確認・指数も下落トレンドで伸ばしたい方向と同一でかつ、出来高を伴っているのに5分線より上にローソクが出れないように押さえつけられた状態で戻りの足が完成して次の足に変わってかつ上髭をつけることなく一瞬で下落していくパターンがあるとする。その条件をクリアして初めてエントリーできるのに、前日から圧倒的下落トレンドでもなく、寄りの数本で下落しただけなのに、下落トレンド認定をしたり、指数も下落はしているが圧倒的に下落トレンドではなかったり、出来高もそれほど、5分線をローソクが普通に突き抜けているなど条件を満たしていないのに同じような形だからエントリーする。みたいな甘いエントリーばかりだった。5分線より上につき抜けた時点でエントリーせずそのまま下落していったとしても機会損失を受け入れて、次の足の形を確認していればエントリーしなくて損切もなくて済んだ。

寄りの数本で強いトレンドを判断するのは、日足・5分足で比較的長めに見たトレンドと、寄り付きからの数本の足の方向が一致していて、指数も同じ方向に強くトレンドが出ているときに限る。

環境認識を確認することが雑になっているし、エントリーしたポイントからトレンドが強くなってほしいという願望が入ったエントリーになっている。せっかくチャンスまで待ってエントリーしたのに、1つもうまいかないのはさすがにへこむと思っていたが、確認しているとそりゃそうなるわと納得した。期待値が無いのではなく、期待値があるエントリーポイントを知っているが、環境認識ができていないため、形が似ているだけの理由でエントリーしてしまっていて、期待値があるポイントだと勘違いし、ただの50%どっちに上下するかわからない運任せのエントリーをしてしまっている。というところだろう

A:100%チャンスだと思うポイントと、B:80%のチャンスだと思うポイントがある。

Bは、少しローソクの形がずれていたり、エントリーしたい方向に対して5分足をまたいでいたり、跨いでいなかったりと微かな差がある。あとは、ローソクが完成するまでの直前の値動きから、新しいローソクが出来上がるまでの値動き、指数が伸ばしたいトレンドと同じ方向を向いているか、地合いはどうか、トレンドは本当に確認できているかなど。確認する事項が多々ある。

その動きがローソク足に現れると思っていたて、大体形が少しでも違うと、押しが強くて損切になったり、トレンド転換点だったり、横横になるポイントだったりする。

妥協できるポイントを検証するといったが、少しでも妥協していたらエントリーする価値が無いと気づいた。

自分が思ったよりも、Aのチャンスは本当に少なく、1日エントリーできないことは当たり前なのかもしれない。

ちょっと似てる形だからエントリーするとか80%のチャンスでエントリーというのは、エントリーできるポイントがたくさんあると思っているからだと思う。それに加えて、そういう時は強いトレンドが出ているか否かの確認が厳かになっている。

その確認が本当に重要で、強いトレンドが出ていない時はやるだけ無駄だと諦めてトレンドが出るまで永遠に待つというのを徹底できるようにしないと永遠に負ける。今の自分に必要なのはパズルのピースを一個ずつはめていく最中に、抜け出てくるピースをパズルにはめなおし微調整して、更に足りないピースを探してはめていくこと。

今日も一つ反省から教訓を経た。明日も引き続き検証を続ける